



平成28年1月4日

各 位

会 社 名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 小 林 武 司
(コード：2538 東証第二部)
問合せ先 執行役員 財務計画部長 柚 義 継
(電話番号 06-6444-5293)

(訂正)「平成26年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成27年11月6日付適時開示「平成27年9月期決算短信の開示時期の遅延並びにこれに係る経緯として当社代表取締役会長への便宜供与に係る疑義に対する独立調査委員会の調査及び当該調査の結果を踏まえたガバナンス体制の検討等に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成26年8月8日付「平成26年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了いたしましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には____を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



平成26年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月8日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL <http://www.j-fla.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-6444-5293
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第3四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第3四半期	19,269	△1.0	335	26.3	77	—	10	—
25年9月期第3四半期	19,465	△3.1	265	△39.8	△191	—	△415	—

(注) 包括利益 26年9月期第3四半期 15百万円(—%) 25年9月期第3四半期 △380百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第3四半期	0.16	—
25年9月期第3四半期	△6.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第3四半期	23,083	3,032	13.1
25年9月期	23,462	3,017	12.9

(参考) 自己資本 26年9月期第3四半期 3,032百万円 25年9月期 3,017百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—		
26年9月期(予想)				—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,500	0.9	490	—	170	—	100	—	1.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期3Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期3Q	45,988株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期3Q	67,958,693株	25年9月期3Q	64,759,189株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られたものの海外経済の下振れリスクや輸入原材料の高騰など不透明な状況が続きました。また4月からの消費税率引き上げに伴う駆け込み需要やその反動も見られました。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施し収益の向上を図りました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,269百万円(前年同期比1.0%減)、営業利益は335百万円(前年同期比26.3%増)、経常利益は77百万円(前年同期は191百万円の経常損失)、四半期純利益は10百万円(前年同期は415百万円の四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、家庭用では一滴ずつ注げる密封ボトルを採用した小容量商品「マルキン特選丸大豆しょうゆ200ml」「マルキンさしみしょうゆ200ml」を2月に発売しました。また、だし醤油である「マルキンかき醤油360ml」は堅調に推移しましたが、主力商品が苦戦したことにより売上が減少しました。業務用は、PB商品の新規獲得等が寄与したものの全体としては売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用商品の「マルキン旨味つゆ1L」や「盛田焼いて炒めてガーリックバター醤油だれ175g」「イチミツボシごまドレッシングゆず果汁入り500ml」等の売上が順調に推移しましたが、業務用商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少したものの、家庭用のPB商品及び業務用商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

漬物につきましては、主力商品の「忠勇あっさり味なら漬胡瓜120g」が新規開拓等により売上が伸びたものの、需要の減少と低価格傾向の影響もあり全体では売上が減少しました。

飲料につきましては、話題の希少糖を使用した2月発売の新商品「ハイピースベジウォーター500ml」が好調に推移しました。また「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」「ハイピース有機宇治茶/有機玄米ほうじ茶330ml」をリニューアルして販売施策を進めたものの、競合他社との価格競争で苦戦したことやPB商品が落ち込んだこと等により全体としては売上が減少しました。

酒類につきましては、清酒は、女性をターゲットとした桜酵母で仕込んだ純米酒「ねのひ桜酵母のお酒なないろ桜」の300mlサイズを新たに発売いたしました。また、「男山大吟醸 300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸本生1.8L」等の特定名称酒が順調に推移しました。清酒以外では「盛田蔵出し本みりん1.8L」「大和果実酒用焼酎1.8L」や焼酎ベースのリキュール「菊弥栄ゆずゆず1.8L」等が好調で全体として売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は10,611百万円(前年同期比3.5%減)、セグメント利益(営業利益)は286百万円(前年同期は45百万円の営業損失)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが低価格市場への参入に成功したこともあり全般的に好調に推移しました。また、国内メーカーとの協力関係をさらに強化した鴨肉、ケータリング用に採用されたフランス産キャビア、1月下旬に販売を開始したブリドール社(フランス)の冷凍パンが売上増加に寄与しました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する中、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は洋菓子メーカーの定番採用やコンビニエンスストア等の中大手ユーザー開拓が順調に推移しました。また、その他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により売上が増加しました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌマママンジャム」が、堅調に推移しました。またギフト向け販売のキャビア、フォアグラ等の高額商品が好調に推移したことや、積極的に新商品を導入したこと等により売上が増加しました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」は同ブランドの最高級商品である「R.D. 2002年」を4月に発売した他、ホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施等の効果もあり好調に推移しました。また、1月より導入した新商品「キャップ・ロワイヤル」も順調に推移したこと等により売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は8,374百万円(前年同期比5.5%増)、セグメント利益(営業利益)は215百万円(前年同期比4.6%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、仕掛品が98百万円増加、受取手形及び売掛金が224百万円、現金及び預金が56百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ123百万円減少し11,656百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が150百万円、無形固定資産が16百万円、投資その他の資産が76百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ243百万円減少し11,412百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ379百万円減少し23,083百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、1年内償還予定の社債が1,000百万円、未払金が171百万円増加、支払手形及び買掛金が188百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,115百万円増加し17,524百万円となりました。固定負債は、社債が1,022百万円、長期借入金が355百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,510百万円減少し2,526百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益10百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ15百万円増加し3,032百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年11月8日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示しております「平成26年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第3四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上しているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善に向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」「高付加価値製品の開発・販売」「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,196	1,139
受取手形及び売掛金	4,728	4,504
商品及び製品	3,136	3,148
仕掛品	1,764	1,863
原材料及び貯蔵品	579	602
その他	404	421
貸倒引当金	△30	△24
流動資産合計	11,779	11,656
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,578
その他(純額)	2,167	2,084
有形固定資産合計	8,814	8,663
無形固定資産		
のれん	1,843	1,726
その他	82	182
無形固定資産合計	1,925	1,909
投資その他の資産		
その他	1,676	1,473
貸倒引当金	△760	△633
投資その他の資産合計	915	839
固定資産合計	11,655	11,412
繰延資産	27	14
資産合計	23,462	23,083

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,137	1,948
短期借入金	12,072	12,089
1年内返済予定の長期借入金	544	538
1年内償還予定の社債	44	1,044
未払法人税等	33	49
賞与引当金	132	151
その他	1,443	1,701
流動負債合計	16,408	17,524
固定負債		
社債	1,198	175
長期借入金	1,557	1,202
退職給付引当金	235	127
その他	1,044	1,020
固定負債合計	4,036	2,526
負債合計	20,444	20,050
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,273	△7,262
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,006	3,016
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	16
繰延ヘッジ損益	4	0
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	15
純資産合計	3,017	3,032
負債純資産合計	23,462	23,083

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)
売上高	19,465	19,269
売上原価	14,040	14,165
売上総利益	5,425	5,103
販売費及び一般管理費	5,159	4,767
営業利益	265	335
営業外収益		
受取利息	10	5
受取配当金	4	4
持分法による投資利益	6	14
為替差益	44	—
貸倒引当金戻入額	—	54
その他	57	36
営業外収益合計	123	113
営業外費用		
支払利息	309	301
貸倒引当金繰入額	220	—
その他	51	69
営業外費用合計	581	371
経常利益又は経常損失(△)	△191	77
特別利益		
関係会社株式売却益	82	25
その他	—	5
特別利益合計	82	30
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	80	—
その他	10	11
特別損失合計	91	24
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△200	84
法人税、住民税及び事業税	45	62
法人税等調整額	169	10
法人税等合計	214	73
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△415	10
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△415	10

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	<u>△415</u>	<u>10</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	8
繰延ヘッジ損益	36	△4
為替換算調整勘定	△9	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	1
その他の包括利益合計	<u>34</u>	<u>4</u>
四半期包括利益	<u>△380</u>	<u>15</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△380</u>	<u>15</u>
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(訂正前)



平成26年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月8日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2538 URL <http://www.j-fla.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-6444-5293
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第3四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第3四半期	19,269	△1.0	326	37.0	68	—	2	—
25年9月期第3四半期	19,465	△3.1	238	△46.1	△306	—	△526	—

(注) 包括利益 26年9月期第3四半期 6百万円(—%) 25年9月期第3四半期 △491百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第3四半期	0.03	—
25年9月期第3四半期	△8.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第3四半期	23,092	3,066	13.3
25年9月期	23,462	3,059	13.0

(参考) 自己資本 26年9月期第3四半期 3,066百万円 25年9月期 3,059百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,500	0.9	490	—	170	—	100	—	1.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期3Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期3Q	45,988株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期3Q	67,958,693株	25年9月期3Q	64,759,189株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られたものの海外経済の下振れリスクや輸入原材料の高騰など不透明な状況が続きました。また4月からの消費税率引き上げに伴う駆け込み需要やその反動も見られました。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施し収益の向上を図りました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,269百万円(前年同期比1.0%減)、営業利益は326百万円(前年同期比37.0%増)、経常利益は68百万円(前年同期は306百万円の経常損失)、四半期純利益は2百万円(前年同期は526百万円の四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、家庭用では一滴ずつ注げる密封ボトルを採用した小容量商品「マルキン特選丸大豆しょうゆ200ml」「マルキンさしみしょうゆ200ml」を2月に発売しました。また、だし醤油である「マルキンかき醤油360ml」は堅調に推移しましたが、主力商品が苦戦したことにより売上が減少しました。業務用は、PB商品の新規獲得等が寄与したものの全体としては売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用商品の「マルキン旨味つゆ1L」や「盛田焼いて炒めてガーリックバター醤油だれ175g」「イチミツボシごまドレッシングゆず果汁入り500ml」等の売上が順調に推移しましたが、業務用商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少したものの、家庭用のPB商品及び業務用商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

漬物につきましては、主力商品の「忠勇あっさり味なら漬胡瓜120g」が新規開拓等により売上が伸びたものの、需要の減少と低価格傾向の影響もあり全体では売上が減少しました。

飲料につきましては、話題の希少糖を使用した2月発売の新商品「ハイピースベジウォーター500ml」が好調に推移しました。また「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」「ハイピース有機宇治茶/有機玄米ほうじ茶330ml」をリニューアルして販売施策を進めたものの、競合他社との価格競争で苦戦したことやPB商品が落ち込んだこと等により全体としては売上が減少しました。

酒類につきましては、清酒は、女性をターゲットとした桜酵母で仕込んだ純米酒「ねのひ桜酵母のお酒なないろ桜」の300mlサイズを新たに発売いたしました。また、「男山大吟醸 300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸本生1.8L」等の特定名称酒が順調に推移しました。清酒以外では「盛田蔵出し本みりん1.8L」「大和果実酒用焼酎1.8L」や焼酎ベースのリキュール「菊弥栄ゆずゆず1.8L」等が好調で全体として売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は10,611百万円(前年同期比3.5%減)、セグメント利益(営業利益)は285百万円(前年同期は46百万円の営業損失)となりました。

(輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが低価格市場への参入に成功したこともあり全般的に好調に推移しました。また、国内メーカーとの協力関係をさらに強化した鴨肉、ケータリング用に採用されたフランス産キャビア、1月下旬に販売を開始したブリドール社(フランス)の冷凍パンが売上増加に寄与しました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する中、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は洋菓子メーカーの定番採用やコンビニエンスストア等の中大手ユーザー開拓が順調に推移しました。また、その他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により売上が増加しました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌママンジャム」が、堅調に推移しました。またギフト向け販売のキャビア、フォアグラ等の高額商品が好調に推移したことや、積極的に新商品を導入したこと等により売上が増加しました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」は同ブランドの最高級商品である「R.D. 2002年」を4月に発売した他、ホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施等の効果もあり好調に推移しました。また、1月より導入した新商品「キャップ・ロワイヤル」も順調に推移したこと等により売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は8,374百万円(前年同期比5.5%増)、セグメント利益(営業利益)は211百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、仕掛品が98百万円増加、受取手形及び売掛金が224百万円、現金及び預金が56百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ126百万円減少し11,665百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が137百万円、無形固定資産が16百万円、投資その他の資産が76百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ230百万円減少し11,412百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ369百万円減少し23,092百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、1年内償還予定の社債が1,000百万円、未払金が171百万円増加、支払手形及び買掛金が184百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,134百万円増加し17,500百万円となりました。固定負債は、社債が1,022百万円、長期借入金が355百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,510百万円減少し2,526百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益2百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ6百万円増加し3,066百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年11月8日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示しております「平成26年9月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第3四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上しているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善に向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」「高付加価値製品の開発・販売」「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,196	1,139
受取手形及び売掛金	<u>4,738</u>	<u>4,513</u>
商品及び製品	3,136	3,148
仕掛品	1,764	1,863
原材料及び貯蔵品	579	602
その他	<u>407</u>	421
貸倒引当金	<u>△30</u>	<u>△24</u>
流動資産合計	<u>11,792</u>	<u>11,665</u>
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,578
その他(純額)	<u>2,154</u>	2,084
有形固定資産合計	<u>8,801</u>	8,663
無形固定資産		
のれん	1,843	1,726
その他	82	182
無形固定資産合計	1,925	1,909
投資その他の資産		
その他	<u>1,654</u>	<u>1,447</u>
貸倒引当金	<u>△738</u>	<u>△607</u>
投資その他の資産合計	915	839
固定資産合計	<u>11,642</u>	11,412
繰延資産	27	14
資産合計	<u>23,462</u>	<u>23,092</u>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,127	1,942
短期借入金	12,072	12,089
1年内返済予定の長期借入金	544	538
1年内償還予定の社債	44	1,044
未払法人税等	33	48
賞与引当金	132	151
その他	1,410	1,683
流動負債合計	16,365	17,500
固定負債		
社債	1,198	175
長期借入金	1,557	1,202
退職給付引当金	235	127
その他	1,044	1,020
固定負債合計	4,036	2,526
負債合計	20,402	20,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,231	△7,229
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,048	3,050
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	16
繰延ヘッジ損益	4	0
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	15
純資産合計	3,059	3,066
負債純資産合計	23,462	23,092

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)
売上高	19,465	19,269
売上原価	14,067	14,169
売上総利益	5,397	5,099
販売費及び一般管理費	5,159	4,773
営業利益	238	326
営業外収益		
受取利息	10	5
受取配当金	4	4
持分法による投資利益	6	14
為替差益	44	—
貸倒引当金戻入額	—	57
その他	56	33
営業外収益合計	122	115
営業外費用		
支払利息	309	301
貸倒引当金繰入額	302	—
その他	55	71
営業外費用合計	667	373
経常利益又は経常損失(△)	△306	68
特別利益		
関係会社株式売却益	82	25
その他	—	5
特別利益合計	82	30
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	80	—
その他	10	11
特別損失合計	91	24
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△315	74
法人税、住民税及び事業税	41	62
法人税等調整額	169	10
法人税等合計	210	72
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△526	2
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△526	2

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△526	2
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	8
繰延ヘッジ損益	36	△4
為替換算調整勘定	△9	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	1
その他の包括利益合計	34	4
四半期包括利益	△491	6
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△491	6
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。